

豪州準備銀行はタカ派的な金融政策姿勢を示さず

- 豪州準備銀行(RBA)は政策金利を1.50%に据え置き。RBAは市場が注目したタカ派的な金融政策姿勢は示さず。
- RBAは今後の豪州景気の緩やかな拡大を引き続き予想。4-5月の小売売上高は個人消費回復の兆しを示す。
- 2017年内はRBAの政策金利は据え置かれるとの見方が大勢な一方、2018年の利上げ転換観測が台頭し始める。
- RBAは豪州景気の回復や雇用・物価環境の改善度合いに応じて、利上げ転換に向けた地ならしを慎重に行う見込み。

RBAはタカ派的な金融政策姿勢を示さず

豪州準備銀行(RBA)は7月4日の金融政策理事会で、政策金利を1.50%に据え置く決定を下しました(図1)。

6月27日のドラギ欧州中銀(ECB)総裁の講演を契機に欧米中央銀行による金融緩和の縮小観測が台頭していたことから、金融市場ではRBAの金融政策姿勢がタカ派化するかに注目が集まりました。しかし、実際のロウ総裁の声明文では、「政策金利の据え置きが整合的」との従来通りの中立姿勢が示されるに留まりました。

RBAのタカ派姿勢が示されなかったことを受けて、理事会直後の豪ドル相場は小幅の豪ドル安で反応しました。

2017年4-5月の小売売上高に消費回復の兆し

RBAによる声明文の景気判断では、2017年1-3月期の豪GDPが一時的な要因によって予想通りの減速を示したことが指摘され、今後の豪州景気は緩やかな拡大が予想されるとの見方が引き続き示されました。

実際、2017年2-3月に低迷した豪州の小売売上高が4-5月には既に底堅い反転を示すなど、個人消費に回復の兆しがみられます(図2)。

市場は2018年のRBAの利上げ転換を織り込む

今後のRBAの金融政策に関しては、2017年内は政策金利が据え置かれるとの見方が大勢な一方、足元では2018年にRBAが利上げ転換するとの観測が市場で台頭し始めています。翌日物金利スワップ市場では、2018年末までにRBAが利上げを実施する確率が既に8割程度まで織り込まれています(図3)。

もっとも、市場での利上げ観測は短期間で台頭したものの、RBAは今後の豪州景気の回復や雇用・物価環境の改善度合いに応じて、将来的な利上げ転換に向けた地ならしを慎重に行うものと考えられます。

図1: 豪州および主要国の政策金利の推移

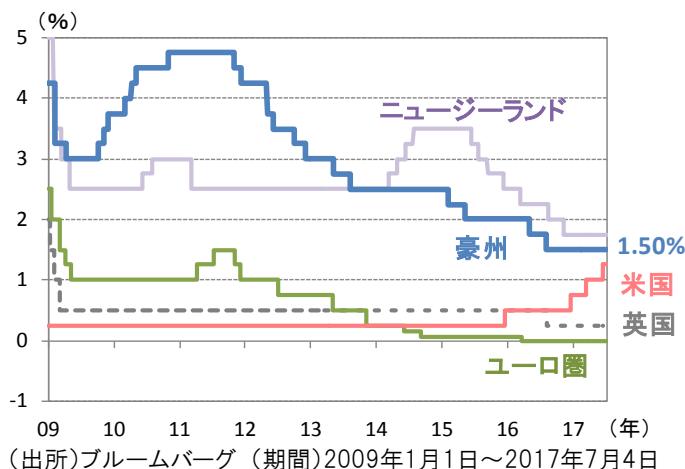


図2: 豪州の小売売上高の推移

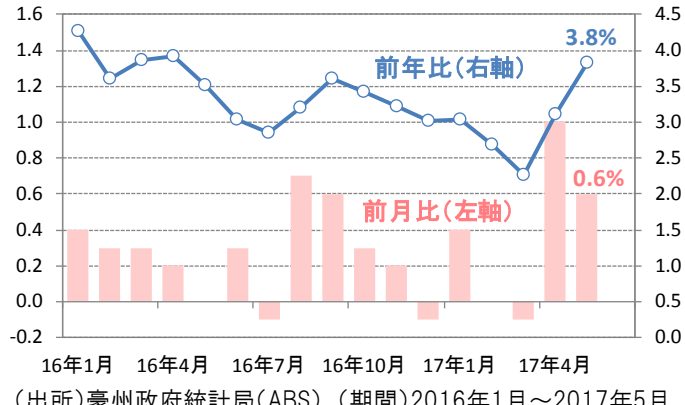
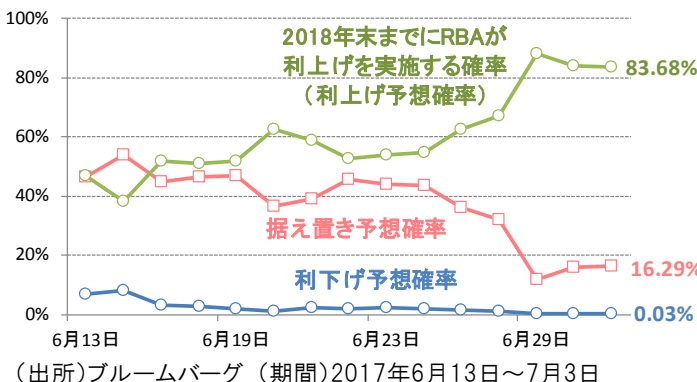


図3: 金利スワップ市場が織り込むRBA政策金利予想



●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。